

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 78 号 平成 24 年 5 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

LDL コレステロール(LDL-C)直接測定法と 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012



循環器科部長 鈴木 章古

平成 20 年 4 月より始まった 40 歳～74 歳までの公的医療保険加入者全員を対象とした保健制度である「特定健康診査・特定保健指導」(いわゆる「メタボ健診」)で LDL-C が検査項目に導入されました。これまで LDL-C の測定法として、総コレステロール(TC)、HDL コレステロール(HDL-C)、中性脂肪(TG)の測定値から Friedewald 法($LDL-C = TC - HDL-C - TG/5$)により計算値として求める方法が主に用いられていましたが、メタボ健診施行以後は急速に LDL-C 直接測定法へと移行した感があります。しかし、この LDL-C 直接測定法は測定試薬間の測定値のばらつきが大きく、同一症例でもある試薬では 130 mg/dl だったものが他のメーカーの試薬では 160 mg/dl といった具合で、それも必ずしもその試薬はいつも高めに出るというわけでもないという非常に信頼性に欠けるものでした。実臨床ではどのメーカーの試薬を使用しているのかを把握して評価しておられる Dr はほとんどないのが実状です。

そこで今春出版される予定の、日本動脈硬化学会編「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012」では LDL-C 直接測定法を評価項目として採用せず、TC-HDL-C を non-HDL コレステロール(non-HDL-C、正確には non-HDL コレステロール-コレステロールと呼ぶべきでしょうが)をパラメータとして動脈硬化リスクを評価することを提唱しています。この non-HDL-C は、低 HDL-C 患者に動脈硬化がおこりやすい、また LDL-C/HDL-C 比で 2 あるいは 1.5 以下を目指すべきである、といったこれまでの知見ともよく一致しており十分に納得が行くものです。また動脈硬化に影響があるとされる VLDL、VLDL レムナントやカイロミクロン、カイロミクロンレムナントといった高 TG 血症をも考慮に入れた指標と考えられます。

具体的なガイドラインの内容は発表待ちの状態ですが、non-HDL-C が生化学検査伝票に記載される日まで待たず、患者の指導を始めてはいいかがでしょうか。

緑内障配合点眼液

眼科部長 丹羽 慶子



眼科領域で初めての配合剤、緑内障配合点眼液が発売になり、間もなく2年になります。

眼圧降下剤は数多くありますが、現在、よく使われている薬剤は、プロスタグランジン関連薬(キサラン®、トラバタンズ®、ルミガン®など)、β-遮断薬(チモプトール®、ミケラン®など)、炭酸脱水酵素阻害薬(トルソプト®、エイプト®)です。治療は単剤から開始しますが、コントロールが悪い場合は、薬剤を変更したり、2種、3種、と併用していきます。一般的に、点眼薬の種類が増えるとコンプライアンスが低下するといわれおり、配合剤の開発が待たれていました。現在、発売されている配合剤は、β-遮断薬+プロスタグランジン関連薬(ザラカム®、デュオトラバ®)、β-遮断薬+炭酸脱水酵素阻害薬(コソプト®)の2種類です。

配合点眼液の利点としては、1.点眼回数軽減、2.点眼時間短縮、3.薬剤の洗い流し回避、4.副作用軽減、などがあげられます。朝夕2回→朝1回、朝昼夕3回→朝夕2回となることにより、患者の負担が減り、点眼忘れも減ります。同時に2種類以上点眼する場合は、洗い流しによる薬効低下を防ぐため、点眼間隔を5分以上あけるべきと言われており、時間短縮、薬効低下を防ぐことができます。また、防腐剤の曝露回数が減ることにより、副作用(角膜びらん、眼瞼炎など)の減少が期待されます。

使用した経験では、「楽になった」との声が実際に聞かれ、「昼の点眼を忘れます」、「5分待ってるうちに次を忘れてしまう」と言っていた方達の眼圧が、点眼変更後さらに下がっているようでした。また、認知症があり、家族や介護士がさしている場合も、確実性が増し効果がでています。しかし、配合剤に変更してから、眼圧が上昇する場合もあり、そういった症例は、変更前もきちんと点眼できていた症例に多いと思われました。変更3ヶ月後で、眼圧が2mmHg以上下降した症例19.7%、不変59.1%、2mmHg以上上昇した症例21.2%、という他院の報告があり、当院でも同様の印象です。変更後は経過観察が必要のようですが、コンプライアンスの悪い症例には特に有用な薬剤と思われます。

